

実質化された人・農地プラン（福田地区）

市町村名	対象地区名	作成年月日	直近の更新年月日
朝倉市	福田地区	令和3年3月31日	平成31年3月29日

1 対象地区の現状

1) 地区内の耕地面積（市農地台帳より）	312.7 ha
2) アンケートに回答した地区内の農業者の耕作面積合計	230.3 ha
3) 地区内の75歳以上の農業者の耕作面積合計（市農地台帳より）	68.6 ha…A
i) Aのうち、アンケートに回答した面積合計	55.1 ha…B
① Bのうち、後継者がいる 面積合計	38.9 ha…C
② Bのうち、後継者がいない 面積合計	15.7 ha…D
ii) Aのうち、後継者について不明の面積合計（A-C-D）	14.0 ha
4) 地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積合計	28.8 ha…E
（備考）※貸付け等の意向が確認された農地は、566筆、35.2haとなっている。	

2 対象地区の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・後継者がいない。耕作者が減っており、一戸の農家の負担が増えてきている。 ・福田生産組合や機械利用組合も高齢化が進んでいる。退職者に組合活動に参加してもらっているが、再雇用もあり年齢が上がってきている。 ・組合の法人化も検討したが、後継者もないため難しい状況。 ・排水設備が整っていない畑は、大雨で被災している。 ・農産物価格の低迷、機械等経費が向上しているため、経営がなりたたない。 ・ほ場整備されていないところの管理が難しい。面積が狭い農地があり管理ができなくなっている。 ・他地区の人が借りていた農地が荒れてきている。
--

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

<ul style="list-style-type: none"> ・ほ場整備地を中心に認定農業者及び生産組合に集約化していく。 ・農業の企業参入を検討する。
--

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針（任意記載事項）

<ul style="list-style-type: none"> ・農家数が減っており、各農家が精一杯の状況で規模拡大は厳しい状況にあるが、福田生産組合や認定農業者等の担い手を中心に農地利用を行う。
--

5 今後の地域の中心となる経営体（別紙）